

鹿児島県 上野原縄文の森 開園10周年

縄文時代に生きた人びとは、自分たちを取り巻く環境をみつめ、自然と共存してきました。上野原遺跡を見ると、近くに水場があり、台地のふもとには海もあります。深い森では、食糧となる木の実やイノシシなどを得ることができたのでしょうか。

上野原縄文の森は、かつてその場所で生きていた縄文時代の人びとの生活に触れ、学ぶことができる場所として平成14年10月に誕生し、今年10周年を迎えます。

上野原縄文の森

上野原遺跡は、工業団地「国分上野原テクノパーク」建設をきっかけに昭和61年度から埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われました。その結果、縄文時代早期後葉（約7500年前）の壺形土器や土偶などが数多く出土し（そのうち767点が重要文化財に指定）、それに続く調査では縄文時代早期前葉（約9500年前）の当時としては「国内最大規模かつ最古級の定住化した集落跡」が発見され、平成11年1月14日に国指定史跡に指定されました。

上野原遺跡では竪穴住居跡をはじめ、石蒸し料理に利用したとみられる集石遺構^{いしむら}、数多くの土器や石器、狩りや水くみなどに利用していた道の跡が発見されています。従来、縄文文化は東日本が発祥の地といわれていましたが、この発見により、日本の他の地域に先駆けて、南九州で縄文文化の定住生活が行われていたことが分かり、定説を覆す大発見となりました。

この貴重な上野原遺跡の保存と、県民共有の歴史的文化的遺産を青少年の教育や県民文化の振興などに幅広く活用するため、約36ヘクタール（東京ドーム約8個分）の広大な土地が、調査研究・体験・交流・学習などの拠点機能を備えた施設「上野原縄文の森」として整備されました。



開園時



現在



開園時と現在の上野原縄文の森を比べると、森が大きく成長した様子がわかります

「上野原縄文の森」の開園から現在まで

上野原縄文の森は、展示館や体験学習館などを訪れる人を含めると、毎年10万人以上が来園し、平成14年の開園から平成24年3月までに累計で120万人以上もの方々に利用されており、公益財団法人鹿児島県文化振興財団が県の指定をうけて管理運営している施設です。

また、県内外の多くの学校の社会科学習や修学旅行の見学先となっているほか、民間企業などの研修旅行の訪問先の一つとしても利用されています。特に学校の遠足や社会科学習としての利用は多く、開園当時から毎年訪れる常連校もあります。

「上野原縄文の森」の姿

上野原縄文の森は四季を通じて来園する人々が学び、憩い、楽しめる場として、国指定史跡を中心とした「見学エリア」と、国の重要文化財となった土器類が出土した「体験エリア」とに分けられています。

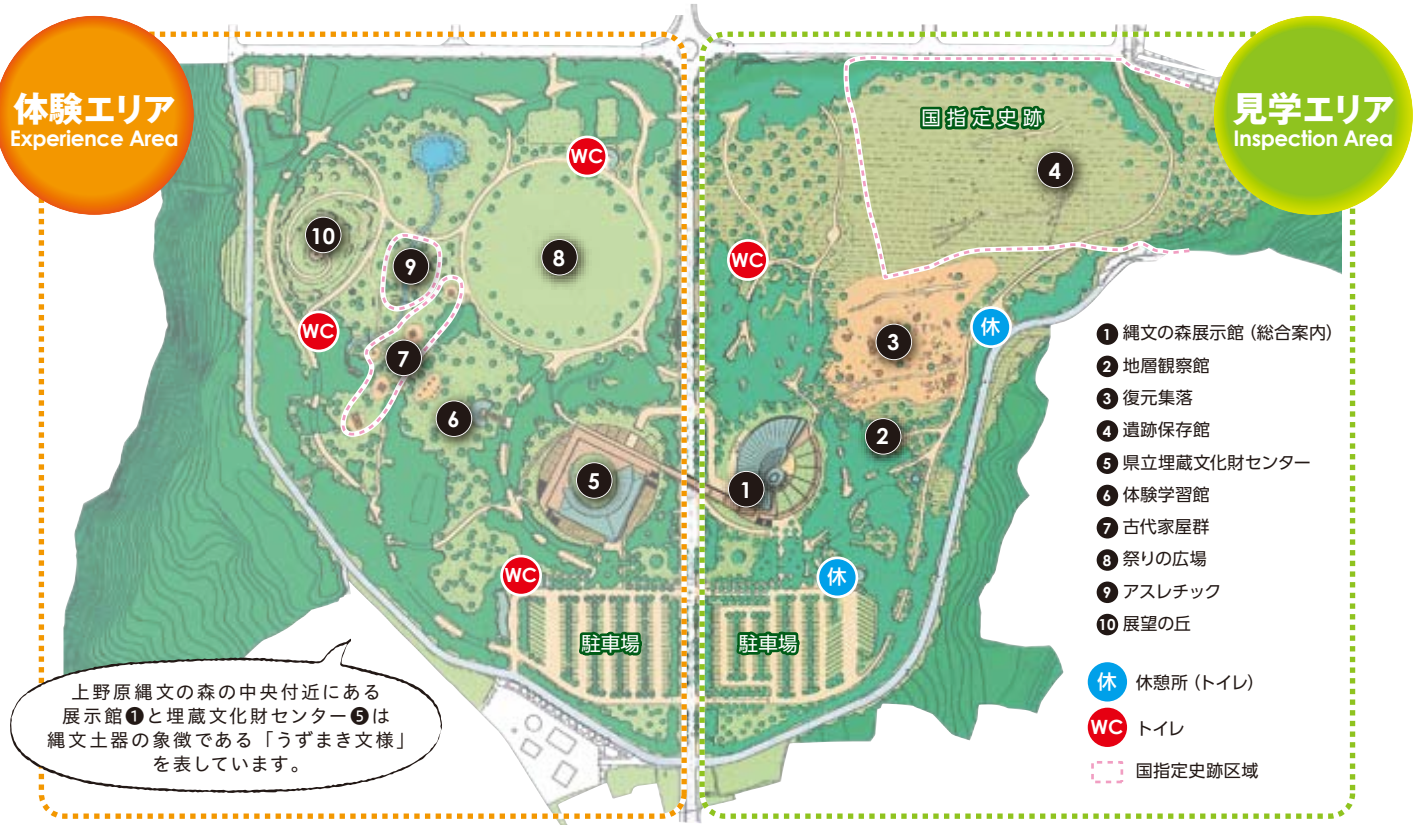
「見学エリア」では、展示館をはじめ、遺跡保存館や地層観察館などがあり、創造力豊かな縄文時代の文化や暮らしを体感できます。一方、「体験エリア」は体験学習館をメインとする古代体験ゾーンとなっています。さまざまな縄文文化の体験ができるほか、埋蔵文化財の調査研究などの拠点施設である「埋蔵文化財センター」も設置されています。

また、上野原縄文の森は、発掘した国指定史跡や重要文化財を含む遺跡・遺物を保存・展示する施設として活用されているほか、展示資料や遺跡の見学、体験活動などを通して歴史への興味・関心を高めるための学校教育の支援施設、さらには生涯学習の場としても活用されています。

そのほかにも、観光施設としての役割もあり、霧島地域内にある「霧島アートの森」や「みやまコンセル」をはじめ、温泉施設などと一体となって観光客の受け入れも行い、地域の発展に役立っています。

体験エリア Experience Area

見学エリア Inspection Area



- ① 縄文の森展示館 (総合案内)
- ② 地層観察館
- ③ 復元集落
- ④ 遺跡保存館
- ⑤ 県立埋蔵文化財センター
- ⑥ 体験学習館
- ⑦ 古代家屋群
- ⑧ 祭りの広場
- ⑨ アスレチック
- ⑩ 展望の丘
- 休 休憩所 (トイレ)
- WC トイレ
- 国指定史跡区域

上野原縄文の森の中央付近にある展示館①と埋蔵文化財センター⑤は縄文土器の象徴である「うずまき文様」を表しています。